



プレスリリース

「強制臓器摘出の阻止と撲滅に関する世界宣言」 中国共産党の蛮行を阻止するよう呼びかける

2021/09/27

9月26日、ヨーロッパ、アメリカ、アジアの5つのNGOが共同で開催する「強制臓器摘出の阻止と撲滅に関する国際サミット」が閉幕した。サミットには19か国から38名の専門家が参加した。主催団体の統計によると、6つのセッションは合計数十万人が視聴した。主催団体はサミットの最終日に「強制臓器摘出の阻止と撲滅に関する世界宣言（Universal Declaration on Combating and Preventing Force Organ Harvesting）、以下：世界宣言」を発表し、中国共産党の蛮行を阻止するよう全世界に呼びかける。

「世界宣言」は、アメリカの「強制臓器摘出に反対する医師の会（DAFOH）」、ヨーロッパの「CAP Freedom of Conscience」、日本の「移植ツーリズムを考える会（TTRA）」、韓国の「臓器移植倫理協会（KAEOT）」、そして台湾の「台湾国際器官移植関懐協会（TAICOT）」の5つのNGO団体が共同で発表したもの。

「世界宣言」は、21世紀に生きる人々が、中国共産党による生きている人間からの強制臓器摘出という蛮行を阻止するという決意を示す最も厳粛な宣言であると主催団体は説明している。「世界宣言」は如何なる者や体制からも奪うことのできない不可侵の権利に基づいて構築されており、犯されてはならない人間の尊厳と、生命、身体及び自由に対する基本的な保護など、最も

普遍的な価値観の核心的原則を示している。そして、人間の存在価値を著しく侵害する、中国共産党による強制臓器摘出の阻止と撲滅に向けて具体的な方策を提示している。

主催団体は以下の声明をもって、すべての人々に対して「世界宣言」への支持を呼びかける。

1. 第二次世界大戦は、人類に取り返しのつかない傷と損失をもたらしたと同時に、現代の国際人権の分野において、「ジェノサイド」「拷問」「人道に対する罪」など、非人道的な人権侵害を制裁する数多くの国際刑事法の発展をも促した。しかし、国際刑事法で最も重大と認められているこれらの犯罪は、独裁政権の政治的・経済的影響下で隠蔽・無視され、未だに抑制されていないため、被害者数は持続的に増加している。その中でも、今世紀最悪の人権侵害のひとつとして、中国共産党による生きている人間からの強制臓器摘出が挙げられる。

2. 長年にわたる国際機関や人権団体、各国政府の調査報告および専門家の分析により、「生存中の身体からの強制臓器摘出とその販売は、中国共産党の独裁政権が主導する蛮行である」こと、「生存中の身体からの強制臓器摘出の最大の被害者グループは、中国共産党の弾圧を受けている法輪功グループのメンバーである」こと、そして、「法輪功グループが臓器の主要な供給源となっている」ことが確認されている。2019年、ロンドンを本拠地として設立された「中国法廷 (China tribunal)」も同様に、中国での臓器移植のために拘禁者を殺害する行為が続いており、主な犠牲者には拘束された法輪功学習者が含まれていること、そして法輪功とウイグル人に対する人道に対する罪が行われていると結論づけている。

3. 第二次世界大戦後の70年間、重要な国際人権条約が相次いで発効した。人権、自由、正義が戦争によって破壊された20世紀において、国際社会は人類の生存権を守るためのコンセンサスを宣言や国際条約の形で集約し、実践してきた。「生存中の身体からの強制臓器摘出を反対する世界宣言」は、70年にわたり人類にとって最も重要な国際人権条約の核心的な規範を、生きている人間からの強制臓器摘出という蛮行を阻止・撲滅するための最高の指針としている。その中には、「世界人権宣言 (Universal Declaration of Human

Rights) (1948年)」、「市民的及び政治的権利に関する国際規約 (International Covenant on Civil and Political Rights) (1966年)」、「拷問及びその他の残虐な、非人道的なまたは品位を傷つける取扱いまたは刑罰を禁止する国際条約 (Convention against Torture and Other Cruel, Inhuman or Degrading Treatment or Punishment) (1984年)」、「生物学及び医学の応用に関する人権及び人間の尊厳の保護に関する条約 (Convention for the Protection of Biology and Medicine: Convention on Human Rights and Biomedicine) (1997年)、別名：人権と生物医学に関する条約 (Convention for the Protection of Biology and Medicine: Convention on Human Rights and Biomedicine)」、「人間の臓器の売買に対する行動に関する欧州評議会条約 (Council of Europe Convention against Trafficking in Human Organs) (2015年)」などが含まれる。

4. 中国共産党による生存中の身体からの強制臓器摘出という蛮行は、法輪功グループのメンバーやウイグルなどの少数民族のジェノサイドに利用されるだけでなく、国境を超えた臓器売買、移植ツーリズム、臓器ブローカーなど、臓器移植によってもたらされる巨額の経済的利益の獲得に関与している。そのため、生存中の身体からの強制臓器摘出という非道な行為を阻止・撲滅するためには、国際レベルと国家レベルで同時に行動を起こす必要がある。

5. 国家レベルでは、各国は強制臓器収奪の犯罪行為を厳しく罰する刑事立法を完成させること、司法が率先して捜査・起訴することを「世界宣言」で説明している。そして行政システムでは、強制臓器収奪に関わる者の入国を禁止し、中国の医療関係者に移植術のトレーニングを行わないこと、中国での臓器移植に関する学術論文を公表しないこと等の措置を取るよう働きかける。同時に、各国は強制臓器収奪の違法性について社会的な認識を高める必要がある。「世界宣言」は、臓器の違法な摘出に関する情報の収集、分析、交換における国際協力と、生存中の身体からの強制臓器摘出に関連する調査の協力を行うよう強調する。

「生存中の身体からの強制臓器摘出に反対する世界宣言」は、日本語、英語、中国語、ドイツ語、フランス語、韓国語、スペイン語の7言語に対応してお

り、公式サイト (<https://ud-cp-foh.info>) からダウンロードすることができる。

主催団体は最後に、人間としての良心と尊厳に従い、中国共産党の蛮行を止めるために、世界中のすべての組織と個人に対し「世界宣言」を支持し、署名を呼びかける。

世界宣言についてのお問い合わせは下記までご連絡ください。

nemoto@stop-oh.org

担当：根本



TALCOT
Taiwan Association for International Care of Organ Transplants



特定非営利活動(NPO)法人
移植ツーリズムを考える会
TTRA (Transplant Tourism Research Association)